

インターネットホームページ作成入門

9 6 , 8 , 2 1 作成

9 7 , 3 , 1 改訂

9 7 , 6 , 2 2 改訂

9 8 , 9 , 3 0 改訂

9 9 , 8 , 2 7 改訂

東京パックス有限会社
南中野パソコン教室

はじめに

インターネットを利用し始めて様々なホームページを見ることができるようになると自分でもホームページを作成したいという欲求が高まってきます。

ホームページの作成は、難しそうに思えますが、見かけに凝らなければ意外に簡単なものです。

ホームページは、基本的にテキストファイルとして作成されています。

しかし、単純な文章のみのテキストファイルでは、ありません。

テキストファイルの文中に様々な修飾（タグという）が施されている「ハイパー・テキスト・マークアップ・ランゲージ」略してHTMLという書き方で書かれているものです。

本テキストでは、HTMLを利用して「マイホームページ」への一歩となる「インターネット用語集」を作成してみます。

これは、その所在こそフロッピーディスク上にありますがプロバイダのハードディスクにあるのと同じ感覚でブラウザを通して見ることができるものです。

では、早速、取りかかりましょう。

なお、ホームページは、専用のソフトを使用するとより高度のものが、より容易に作成できるようになりました。当教室の「ホームページ作成入門」では、IBM社のホームページビルダー2000を利用する方法を解説しています。本テキストが理解できたならば、上記コースに進まれることをお勧めします。

必要なソフトウェア等

ホームページを作成する上で必要なソフトウェア及び設備について紹介します。

1. ワードプロ又はエディタ

「はじめに」でご紹介したようにホームページは、HTMLという書式で書かれていますが、本質的には単純なテキストファイルです。

従いまして、テキストファイルを作成、編集できるワードプロソフト又はエディタソフトがあればよいことになります。

前者については、当教室でもコースを設けています「一太郎」でも、もちろん結構ですし、WINDOWS 95 / 98 (以下「WIN」といいます。)に付属しているアクセサリ中の「ワードパッド」でも可能です。

本テキストでは、ブラウザとしてマイクロソフトインターネットエクスプローラ(バージョン5:以下「IE5」といいます。)を使用します。これに伴いWIN上で動く「ワードパッド」を使用する書き方になっています。

もちろん使い慣れたものがあればそれを利用していただければ良いのです。

なお、IE5には、ソースコードの表示・編集機能があり一度作成したHTML文書を表示させた状態でその内容を編集することができます。少々の修正には、便利ですので利用することをお勧めします。

2. グラフィックソフト

ホームページには、必ずといってよいくらい画像(絵・写真)が表示されています。これは、もちろん、なくてもよいのですが画面を見栄えのよいものにするためには、やはり画像が欲しいものです。そのためには画像作成・編集用のソフトウェアが必要となります。

フロッピーディスクに見本として入っている画像は、「COREL PHOTO-PAINT」を使用して作成したものです。「COREL PHOTO-PAINT」は、当教室でもコースを設けています。

なお、ホームページ用の画像の保存形式は、256色までは、gif(ジフ)形式、256色を超えて自然画に近い色を必要とする場合は、JPEG(ジェイペグ)形式(拡張子は、jpg)のいずれかである必要があります。

3. ブラウザ

前述のとおり本テキストでは、WIN上でIE5を使用します。

「インターネット入門」でも述べましたが、比較的近年までブラウザといえば、「ネットスケープ・ナビゲータ/コミュニケーター」という評価が高く一時は、国内のブラウザの80%がネットスケープであったという話です。これを受けてネットスケープでないと表

示が不完全になるホームページも現れていました。

しかし、インターネットエクスプローラがバージョン3以降になりネットスケープと比較して機能面でその色がなくなったこと、価格が無料であること等が評価されてそのシェアは大きく変わりつつあります。

ただし、IE5とネットスケープで同一のページを見ても異なって表示される場合があります。この理由は、様々ですが、概ね以下の原因によるものです。

- (1) IE5よりネットスケープの方がHTMLの文法チェックが厳しい。
- (2) デフォルトの表示フォントがIE5は、ゴシック、ネットスケープは、明朝体。
- (3) HTMLの文法の細部の解釈が異なる。
- (4) 片方しかサポートしていないタグがある。

4. CD-ROMドライブ

現在、販売されているパソコンですと多くの機種に標準で装備されていますが、装備されていない場合は、後述の画像の読み込み等にも支障があり、また、ほとんどのソフトウェアがCD-ROM媒体で提供されるようになってきていることからほぼ必須といってもよい設備であると考えられます。

外付けのCD-ROMドライブは、通常、SCSI（スカジー）機器ですからパソコンのSCSIインターフェースに直接取り付けるか、または、外付けのハードディスクを使用している場合は、数珠つなぎに接続します。

現在では、ほぼ限界の32倍速程度の読み込み速度の速いものが主流となっています。

5. スキャナー及びデジタルカメラ

これは、必ずしもなくとも差し支えありません。

ただし、今後、ホームページを作成しようとする際に自社や家族の写真、趣味の絵等を画像としてインターネット上で公開したいと考えた場合は、あった方が便利なものの一つです。

形式には、ハンディタイプのもの（幅が10cm程度のもの）とフラットタイプのもの（A4サイズ）があります。

価格的には、ハンディサイズのものの方が安く、大きさも小さく、また、画面で見る程度の大きさの画像を取り込むには、適しているとも言えます。

もちろん、「大は小を兼ねる」ではありませんが、フラットタイプのは、OCR用（文字画像を文字情報としてテキストファイル化する）の目的で使用することもできますので多用途を考えておられ、設置スペースに余裕がある場合は、フラットタイプのもので選ばれるのがよいと思います。（SCSIまたはUSB接続）

また、最近、急速に普及してきているデジタルカメラもぜひ検討の対象に挙げなくてはなりません。

6 . ホームページ作成用ソフト

これも必ずしも必要ありません。

しかし、最近では、IBMの「ホームページビルダー」をはじめとするホームページ作成ソフトが販売されるようになってきています。本テキストのようにワープロ/エディタを基にホームページを作成する人の割合は次第に少なくなっていくでしょう。これは、自分でパソコンのプログラムを書く人の割合が減っていることと同様の流れです。

ホームページ作成用のソフトとしては、そのほかにも「HOT AL」（デービーソフト）等があります。

また、補助的な役割を果たすものとしてエクセルで作成した表をHTMLに変換するアドインソフトとしてやはり無料で提供されている「インターネットアシスタント for Excel」があります。これは、IE5と同様にマイクロソフト社のホームページ等からダウンロードできます。[エクセル97では、標準で備えています]

7 . ホームページ管理用ソフト

ホームページの構成が複雑になるにつれて記憶やメモ書きなどの手段ではリンク情報等の管理が難しくなってきます。

ホームページの管理のために前述のホームページビルダー以外にもマイクロソフトから「FRONT PAGE 98」が販売されています。このFRONT PAGEは、ホームページの作成にも使えるほかリンクの切断エラーやリンク関係のグラフィカルな表示が可能になっているなど使いやすいソフトと評価されています。

8 . 素材用画像

これも同様になければならないというものではありませんが、画像を作成する際にすべて自分で作成することは、時間的にも品質的にも難しい面があります。

現在、多くの素材用の画像ファイルが販売されています。

これらは、著作権フリーのものであるので自由に自分のホームページ等に使用することができます。例えば、CD-ROM媒体で販売されている「静素材シリーズ」、「具シリーズ」、「工具箱」、「背景王」等があります。

9 . FTP用ソフト/機能

ホームページを個人又は会社のコンピュータ上に作成する場合は別として、多くは、できあがったホームページ用の全ファイルまたは更新したファイルのみを契約しているプロバイダ(のハードディスク)に転送する必要があります。

この目的で使用するのがFTP用ソフトです。

前述のホームページビルダー2000やIE5には、FTP機能が付いています。

また、シェアウェアの「小次郎」(<http://www.and.or.jp/~kamiyan/kojiro.html>)

(8 0 0 円) 等があります。

マッキントッシュ用には、「 F e t c h 」というソフト(無料)が使用できます。

練習問題

- (1) ホームページ作成に必須なソフトウェアは、()とブラウザです。
- (2) 最近では、ホームページ作成用のソフトとして()等が販売されています。
- (3) ホームページ作成のためにもあった方がよいハードウェアは()と()等です。
- (4) 画像作成のために著作権フリーの素材シリーズが多く()媒体により販売されています。
- (5) ホームページは、()という書き方で書かれています。
これは、普通のテキストファイルを種々修飾したものです。
- (6) ホームページの元になるファイルをプロバイダに転送するソフトを()用ソフトといいます。

準備

本章では、「インターネット用語集」を作成する準備としてHTMLの基本的な記法と本格的なホームページに取り組むために簡単な例を作成してみます。

その上で目標である「インターネット用語集」の概要を設計しましょう。

1. HTML

(1) HTMLとは

HTMLとは、ハイパー・テキスト・マークアップ・ランゲージという名称からも分かるように一種の言語ですので文法があります。

HTMLは、ふつうのテキスト文書中に様々な修飾を施してあります。その内で最も重要な修飾とは、「リンク」を張りつけることができるという点です。リンクとは、文章中の色の変わった個所をクリックするだけで別の文書を画面に表示できるという機能です。

このことがハイパーテキスト(テキストを超えたテキスト)と呼ばれるゆえんです。

HTMLで書いた文書は、普通のワープロ等で見た場合は、文章にごちゃごちゃした修飾(タグといいます。)が付いた形で表示され、印刷されますが、ブラウザで表示するとそのようなタグは見え、タグによって指示された形式で表示、印刷されるというものです。「インターネット入門」で見たようなホームページは、すべてHTMLで書かれているわけです。

さて、HTMLは、言語の一種でもあるわけですから方言もあり変化もしています。

96年当時と比較して現在では、HTML3.2に進化しているものの、IE5やネットスケープで使用されているフレーム機能は、正式にはサポートしていません。また、表組機能、動きのある文字や画像を表示するJava(ジャバ)、ActiveXへの対応もIE5及びネットスケープ(Ver2以降)でマチマチです。ですから、両方のブラウザで見た場合に全く同一の表示結果を得ることは、容易なことではありません。

(2) HTMLの基礎

HTML文書の例を掲げます。(破線は関係ありません)

```
-----  
<HEAD>  
  <TITLE>パソコン基礎コース</TITLE>  
</HEAD>  
  
<BODY>  
  <HR>  
  <H1>パソコン基礎コース</H1>  
  <HR>  
</BODY>  
-----
```

最初のタグ、<HEAD>は、HTML 文書のヘッド部分の始まりを表すタグです。

タグは、一部を除いて半角の<xxxxx>と</xxxxx>とが対になっています。

ヘッダー部分は、タイトル部分しかありません。タイトルは、<TITLE>と</TITLE>で囲まれた文字列がブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されます。

次のタグ、<BODY>は、本体部分の始まりを示すタグです。最後の</BODY>までの間が本文というわけです。

その次の<HR>は、罫線タグとも呼ばれるもので、横罫線を引くことを表します。罫線タグには、様々なものがあります。

例えば、<HR ALIGN=xxxxx>は、罫線の横位置を指示するものでXXXXXには、LEFT、CENTER、RIGHTという文字が入ります。

また、<HR SIZE=xx>は、罫線の太さを数字で指定します。<HR WIDTH=XXXX>では、罫線の長さを数字又はパーセントで指定します。

<HR>は、対にならないタグです。

最後に<H1>ですが、<H1>は、最も大きいサイズのフォントで書くことを指示しています。これは、</H1>がくるまで有効です。

これは<H2>・・・<H6>というように数字が大きくなると対応するフォントのサイズも小さくなります。

これだけの知識で簡単なホームページを作成してみましょう。

```
-----  
<HEAD>  
  <TITLE>ホームページ練習 1 </TITLE>  
</HEAD>  
  
<BODY>  
  <HR ALIGN=CENTER>  
  <H1>ホームページ練習 1 </H1>  
  <HR ALIGN=CENTER>  
  <H2>このホームページは、練習の第 1 号です。 </H2>  
</BODY>
```

以上のように、「ワードパッド」で文章を作成します。ワードパッドは、スタートボタンを押してプログラム -> アクセサリ -> ワードパッドという順で起動し、テキスト形式でフロッピーディスクに保存します。名称は、「rensyu1.htm」とします。なお、MS-DOS や WIN では、英文字の大文字、小文字は区別しませんので、IE 5 でも大文字、小文字に関係なしに画像の表示やリンクが働きます。しかし、プロバイダが UNIX 系のコンピュータを使用している場合は、これを厳密に区別しなければなりません。従って、ファイル名は、大文字か小文字のどちらかに統一する習慣を付けた方がよいでしょう。

ブラウザで見てみましょう。

デスクトップ上のインターネットをダブルクリックして立ち上げます。

最初に自動的にスタートページが表示されますので、ファイルメニューから開くを選択し参照ボタンを押して3.5インチFDのrensyu1.htmを指定しOKをクリックします。

直ちに今作成した文章が表示されるはずですが。

次に文章中の別の個所を指すためのリンクを張るタグを挙げます。

書式は、文字列2となります。

この例では、文字列2をクリックした場合に文字列1で指示した文字列の場所（同一文書内）を画面に表示させることができます。

例えば、りんごが文書本体中であって、別の場所にこのような説明があったとします。

```
<A NAME="APPLE"><H2>りんごについて</H2></A>
```

```
<H3>りんごは、・・・・・・・・・・.</H3>
```

この場合、「りんご」という文字列にカーソルを合わせるとカーソルが手の形になります。そこでクリックすると次の「りんごについて」という個所に飛んでくるというわけです。

同一フォルダ内の異なる文書の場合は、文字列という形を取ります。文字列を同様にクリックすると別の（HREF=で指示されたファイル名の）文書が表示されます。

それでは、早速、先ほどのrensyu1.htmを次ページのように修正して練習2を作成しましょう。

保存名は、rensyu2.htmです。

このホームページでは、ホームページという個所が青色で表示されており、そこをクリックすると「ホームページとは」という説明が読める仕掛けになっています。

また、最後の「ページの先頭に戻る」をクリックするとホームページの先頭に戻ることができます。

作成し保存ができましたらば、早速、ブラウザで表示してみましょう。

```
-----
<HEAD>
  <TITLE>ホームページ練習 2 </TITLE>
</HEAD>

<BODY>
  <A NAME="サイヨ"> </A>
  <HR ALIGN=CENTER>
  <H1>ホームページ練習 2 </H1>
  <HR ALIGN=CENTER>
  <H3>この<A HREF="#HOME">ホームページ</A>は、練習の第 2 号です。 </H3>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <P>
  <H3><A NAME="HOME">ホームページとは</A></H3>
  ホームページとは、インターネットの上で公開されているいわば情報の発信基地です
  </H4>
  <A HREF="#サイヨ"><H3>ページの先頭に戻る</H3></A>
</BODY>
-----
```

なお、ここで、<P>は、段落をあけるタグです。<P>タグの前に全角のスペースを置いて下さい。

最後に同一ディスク中の別文書を表示させるようにリンクを張ってみましょう。

これは、「練習第1号」をクリックすると文書「rensyu1.htm」が表示される仕組みとなっています。

rensyu2.htmをすこし手直して作成します。

保存名は、RENSYU3.HTMとします。

作成後、ブラウザで表示させてみましょう。

```
<HEAD>
  <TITLE>ホームページ練習3</TITLE>
</HEAD>

<BODY>
  <A NAME="サイヨ"> </A>
  <HR ALIGN=CENTER>
  <H1>ホームページ練習3</H1>
  <HR ALIGN=CENTER>
  <H3><A HREF="rensyu1.htm">練習第1号</A>は、別のファイルです。</H3>
</BODY>
```

注 上記の場合、ファイルは、すべて同一のディレクトリにある必要があります。

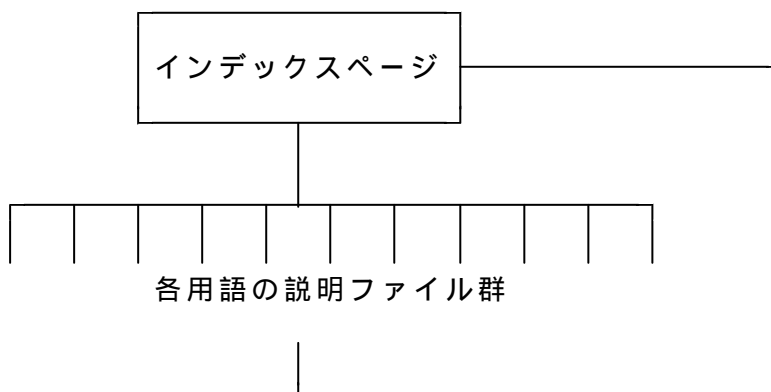
異なるディレクトリにあるファイルを使用する場合には参考書を参照してください。

プロバイダのディスクにホームページを作成する場合は、すべてのファイルを一つのディレクトリに置くようになっているはずですが。

2. 概要設計

次章で作成するホームページは、「インターネット用語集」というタイトルで様々なインターネット関連の用語とその説明文書へのリンクが張られたものになります。

従って次のような構造を持つことになります。



また、インデックスページには、画像を入れることにしましょう。

インターネット用語集の作成

1. インデックスページの作成

(1) 用語の選定

インデックスページで取り上げる用語は、次のものです。(順不同)

- ・インターネット
- ・電子メール
- ・I S D N
- ・マルチメディア
- ・U N I X
- ・P P P
- ・I P アドレス
- ・W W W
- ・ネットニュース
- ・G o p h e r
- ・U R L
- ・ブラウザー

(2) インデックスページ

以下のようにインデックスページをワードパッドで作成しましょう。

<HEAD>

<TITLE>インターネット用語集</TITLE>

</HEAD>

<BODY>

<HR ALIGN=CENTER>

<H1>インターネット用語集</H1>

<HR ALIGN=CENTER>

<H3>下記の用語をクリックして下さい。説明が表示されます。

また、各説明の最後にこの「インデックスページに戻る」という

文章がありますのでその部分をクリックするとこのページに戻れます。

<P>

<H3>

インターネット

電子メール

I S D N

```
<LI><A HREF="multi.htm">マルチメディア</A>
<LI><A HREF="unix.htm">U N I X</A>
<LI><A HREF="ppp.htm">P P P</A>
<LI><A HREF="ip.htm">I P アドレス</A>
<LI><A HREF="www.htm">WWW</A>
<LI><A HREF="news.htm">ネットニュース</A>
<LI><A HREF="gopher.htm">G o p h e r</A>
<LI><A HREF="url.htm">U R L</A>
<LI><A HREF="browse.htm">ブラウザー</A>
</OL>
</BODY>
```

上記でとで囲まれた部分は、数字付きの箇条書きになります。そのリストを示す記号がです。

(3) インデックスページの保存

上記内容で作成した文書を、index.htmという名称でテキスト形式でフロッピーディスクに保存します。

2 . 個々のリンク先ファイル

ここでは、手間を省くためにすでに 1 . (3) でリンク先ファイルとして掲げたファイルの骨子は作成してありますので「inter.htm」のみについて下記のようにタグを追加します。

なお、他のファイルには、すべてタグが書き込まれています。

(1) 先頭に加えるもの

<HEAD>、</HEAD>、<TITLE>、</TITLE>

タイトルは、文書のタイトルと同一とし、「インターネット」とします。

<BODY>、見出し

見出しは、やはりタイトルと同一のものとしします。

フォントサイズは、最も大きいサイズとします。

罫線

見出しの下に<HR ALIGN=CENTER>を入れます。

文章のフォントサイズは、<H4>とします。

(2) 最後に加えるもの

```
</H4>
```

```
<A HREF="index.htm"><H3>インデックスページに戻る</H3></A>
```

```
</BODY>
```

3 . 画像の挿入

画像ファイルは、top.gifというファイル名で既に作成されています。

前述のようにホームページには、gif形式かjpg形式のいずれかが使用可能です。

その使い分けとしては、gif形式は、256色以下で十分な場合に、jpg形式は、写真等の自然画に近い画質を必要としている場合に使用します。

一方、画像の内容は、どのようなものでもよいのですが（もっとも、公序良俗に反するものや肖像権、著作権に触れるものはもちろんいけません）、最終的に画像はディスプレイに表示されますので、その際の大きさを基にサイズを考慮しなければなりません。WINDOWSの画面のサイズは、最低で640×480ドットから成り立っています。

また、最近では、標準で800×600程度の画面も多用されるようになりました。これらを考慮して作成されている画像は、横480、縦300ドットとしています。

なお、サイズが大きすぎる画像は、ブラウザを使用して表示する際、時間がかかりすぎて利用者にとって不便です。

top.gifは、「静素材シリーズ：花の表情」の一写真に文字を書き入れたものです。



4 . 総合テスト

IE5を起動しindex.htmを呼び出してリンクされている各ファイルをきちんと呼び出すことができるかどうか、呼び出したファイルから元のインデックスファイルに戻れるかどうかテストをして下さい。

うまくいかない場合は、関係する部分を修正します。

マイホームページへの道

HTML 3.2 の文法には、これまで使用した以外のタグがあります。それらを使用することにより、より表情が豊かなホームページを作成することができます。

1. 他の種類のタグ

(1) フォントのスタイル

 ~ ~ 部分がボールド体 (太字体) となります。
<I> ~ </I> イタリック体 (斜体)
 ~ 強調
 ~ より強い強調

(2) 箇条書き

 数字なしの箇条書き
文字列
文字列

(例)

```
<UL><H1><LI>パソコン基礎コース (97,2新設) </A><p>  
    <LI>今月の問題コーナー (97,1新設) </A><p>  
    <LI>南中野パソコン教室のコース概要</A><p>  
    <LI>受講までの流れ</A><p>  
    <LI>時間帯</A><p>  
    <LI>案内図</A><p>  
    <LI>割引制度</a><p>  
    <LI>会員規約</h1></A><p>  
</UL>
```

<DL> 定義リストと説明
<DT>項目名
<DD>項目の説明
 以下<DT>、<DD>の繰り返し
</DL>

(例)

```
<DL>  
<DT><h2>1. 現会員割引 [新規] </h2><br>  
<DD><h3>既に1コース以上を受講された (受講中を含みます) 会員 (「現会員」といいます。 ) が (以下、省略)  
</DL>
```

(3) 中央表示

本文等の表示位置を画面中央に表示するためには、<CENTER> ~ </CENTER>

(4) 画像によるリンク

画像をクリックしてリンク先に飛ばしたい場合は、次のように書きます。

```
<A HREF="ファイル名"><IMG SRC="画像のファイル名"></A>
```

この場合、画像をクリックすると先頭のファイル名で指示されたファイルが表示されます。

(5) 音声ファイルへのリンク

画像と同様に音声ファイルを貼り付けることもできます。

書き方は、画像の場合と同様です。パソコンにマイクがついていれば自分で録音したファイルを使用することができます。

文字列で文字列をクリックするとサウンドレコーダーが自動的に起動されて音声を出力する事ができます。

また、画像をクリックすると音声流れるようにするためには、

```
<a href="音声ファイル名"></a>
```

とすればよいのです。

音声ファイルの形式としては、拡張子が a u、 a i f、 w a v の 3 形式があります。

(6) カラー

背景色 <BODY BGCOLOR="#RRGGBB">

ここでRR,GG,BBは、各々赤、緑、青の色を表す 0 0 ~ F F までの 1 6 進数が入ります。

すべて 0 0 の場合は、黒、すべて F F の場合は、白となります。

本文の色 <BODY TEXT="#RRGGBB">

リンクされている部分の色 <BODY LINK="#RRGGBB">

リンクされている部分をアクセス後の色 <BODY VLINK="#RRGGBB">

アクセス中の色 <BODY ALINK="#RRGGBB">

(7) 背景の画像模様

背景を一定の画像模様で埋め尽くすことができます。

```
<BODY BACKGROUND="ファイル名">
```

ファイル名のところは、普通の画像と同様に画像ファイルを指定します。

画像のサイズが小さい方がブラウザが呼び出す時間が短くて済みます。

(8) 表組

Excel で作成した表をホームページで使用することができます。

その方法は、ツールメニューから「インターネットアシスタントウィザード」を選択します。

このようにして作成されたHTML文書は、任意のHTML文書に挿入して利用できます。

(9) イメージマップ (I S M A P) を作成する

ホームページ上でよく見られるイメージマップ (クリックابلマップともいう。) は、画像のある個所をクリックするとリンクされている別の文書を表示させる仕掛けです。

プロバイダにより設定方法が異なります。

以下では、プロバイダが「べっこあめ」の場合について説明します。

マップのイメージ - - 拡張子が gif 形式の画像です。

画像を含む文書 - - - 同じく h t m 形式の文書です。

マップの設定ファイル 同じく m a p の文書です。

まず、h t m 文書では、

と記載します。

m a p ファイルは、次の形式で画像上の位置とリンク先のURLとを結びつけます。

この際、次の5つの部分が指定できます。

点の画像	point
円の画像	circle
四角形の画像	rect
多角形の画像	poly
その他の部分	default

書式は、次のとおりです。URL n は、リンク先のアドレスです。

point	URL 1	x , y	(x , y は、画像の左上を 0 , 0 としたときの位置座標)
circle	URL 2	x1,y1 x2,y2	(座標は、中心及び中心の直上の円周の座標)
rect	URL 3	x1,y1 x2,y2	(座標は、四角形の左上、右下の座標)
poly	URL 4	x1,y1 . . . xn,yn	(座標は、多角形の周を点を左回りに指定)
default	URL 5		

全体の書式は、次のようになります。(ユーザー名がwaraikkoの場合)

default	http://www.bekkoame.or.jp/~waraikko/index.html
point	http://www.bekkoame.or.jp/~waraikko/点の画像ファイル名 x,y
circle	http://www.bekkoame.or.jp/~waraikko/円の画像ファイル名 x1,y1 x2,y2
rect	http://www.bekkoame.or.jp/~waraikko/四角形の画像ファイル名 x1,y1 x2,y2
poly	http://www.bekkoame.or.jp/~waraikko/多角形の画像ファイル名 x1,y1 . . .

(1 0) 参考書等

参考書

更に詳しいHTMLとホームページ作成につきましては、「HTML早わかり」(オーム社)、「ホームページの作り方」(エーアイ出版)、「ホームページ作成キット」(内田洋行)等がありますが現在では、やや古くなってしまいました。

最近のものでは、「新・HTML&CGI入門」(エーアイ出版)、「HTMLタグ辞典」、「青山エリカのホームページを作りましょ」(秀和システム)等をご参照下さい。

ホームページ作成ソフト

前述のホームページビルダー2000を購入すれば、ここでは触れられなかったフレーム機能等を含めてほとんどの機能がカバーされていますのでお勧めです。

当教室の「ホームページ作成入門」では、ホームページビルダーを使用したホームページ作りを学びます。

2 . ファイル転送 (F T P の利用)

でき上がったホームページは、十分にテストして下さい。リンクが十分に働くかどうか、また、プロバイダ特有の約束事があります。例えば、最初のインデックスページは、index.htmlというファイル名を付けるといったことです。

その他に前述のように大文字、小文字の区別が必要な場合があります。(重要!)これは、前述のようにWINDOWSでは、無視されますのでWINDOWSで正常に画像が表示されたり、リンクが働くのにプロバイダに転送した後にうまく表示できない原因にはこれが多いのです。

次は、ファイル転送です。IE5または前述のホームページビルダー2000、シェアウェアの「小次郎」等を利用して下さい。

3 . プロバイダへの通知

転送が終了したらプロバイダに通知して自分のホームページにリンクを張ってもらう必要がある場合があります。（例：「べっこあめ」）

これは、各プロバイダによって方法が違いますので各プロバイダの説明書やブラウザを通じて情報を収集して下さい。

2回目以降の更新の際は、FTP転送のみでよいはずです。

4 . サーチエンジンへの登録

せっかくホームページを作成したのですからサーチエンジンに登録してできるだけ多くの方に見てもらおうようにしましょう。そのためには、個々のサーチエンジンに登録して回るのは大変です。一括して登録してもらえると便利ですね。そのようなところがあります。

次のようなページを利用してみましょう。（無料）

一発太郎：<http://ippatsu.net/TAR0/>

練習問題

1 . 作成したindex.htmについて次のように修正してみましょう。

背景、本文、リンクされている部分、アクセス後の部分について好きな色を指定してみましょう。

作成されたソースコードをIE5の表示メニューからソースコードの表示を選択してその場で表示させてみましょう。

同様にフロッピーディスクにmimi.gifという画像ファイルとonsei.wavという音声ファイルがあります。これを文書の適当な位置に書き込み画像をクリックすると音声が出るようにしてみましょう。

番号付きタグ ~ を番号なしタグ ~ に変えてみましょう。

2 . inter.htmについて次のように修正してみましょう。

タイトルの文字位置を中央に表示してみましょう。

背景を画像で埋めてみましょう。

使用する画像は、back.gifという名前でフロッピーディスクにあります。

本文を見やすくするために段落<P>を入れましょう。

フロッピー中に画像(mark.gif)がありますので「インデックスページに戻る」という文字の代わりに使用してみてください。

Exce197で次の表を作成しインターネット・アシスタント・ウィザードによりHTML文に変換し挿入してみましょう。

	A君	Bさん
紅茶	100	50
コーヒー	50	10
ココア	70	50

[不許複製]

定価 500円